



トヨタすまいるライフ
ファイナンシャルアドバイザー
(NPO法人日本FP協会認定) 石井 亘

入院すると、いくらかかる？

統計では、一般家庭の貯蓄目的第1位の【病気・怪我・災害に対しての備え】。
長寿になるほど増えてくるとされる入院や通院に備え、
治療費や保険についてチェックしておきましょう。

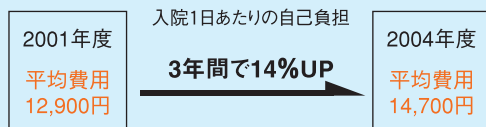
入院すると費用はいくらかかるかご存知ですか？健康保険制度の改正、病院経営の効率化に伴い私達が受ける治療に対してかかる入院費用も、昔前とは大きく様変わりしてきました。

今回は、この入院費用に関して、現状はどうかなのか、どこが変わってきて、どれくらい万一の備えをしておけばよいかを、チェックしておきましょう！

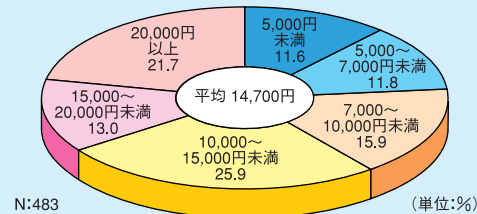
私たちが支払う入院費とは、公的医療保険内の医療費自己負担分、公的医療保険外の治療費や技術料、差額ベッド代などの医療費以外の自己負担分の合計になります。

Check 公的医療保険

サラリーマンの健康保健自己負担 **2割 ▶ 3割**



直近の入院時の自己負担費用「1日あたりの自己負担費用」



<生命保険文化センター「生活保障に関する調査」/2004年度>

Check 増額傾向の差額ベッド代

近年病院経営の効率化、個人のプライバシー尊重により、個室化が進んでいます。

差額ベッド代が必要となる条件

- ①4人以下の病室
- ②1人当たりの面積が6.4㎡以上
- ③ベッドごとにプライバシーを確保する設備が有る(仕切りカーテン等)
- ④個人用の私物収納設備がある(小机、照明、椅子)
※上記条件のいずれかを満たしている場合に発生します。条件により費用が異なります

差額ベッド代 全国平均 10,500円

例)名古屋大学病院の場合、985床中、191床に差額ベッド代が必要
費用:2,625円～52,500円 最高価格病床:10,500円(96床)

Check 高度先進医療

死亡原因第1位のガン治療には、健康保険適用外の高度先進医療技術料のかかる最新治療があります。

例) 前立腺ガンで30日入院し、
国立ガンセンターで粒子線治療した場合

保険診療自己負担	68,430円(当時)
食事代	780円 × 30日 = 23,400円
粒子線治療技術料	2,883,000円

(費用内訳) (2003年5月25日 読売ウィークリーより)

入院にかかる費用

【費用イメージ図】

1	・公的医療保険 外来基本料 入院基本料 基本的な医療費(治療検査投薬)	健康保険 自費(自己負担分)	入院にかかる費用
2	・差額ベッド代 ・高度先進医療にかかる技術料等	自費	
3	・代替治療 ・健康保険外治療	自費	

サラリーマン(45才)標準報酬月額46万円 脳内出血で110日入院の場合、
いくらかかるでしょう？

※公的医療保険では、治療費の3割が自己負担となります。

1	窓口で自己負担となる医療費総額	3,652,940円 × 3割 = 1,095,882円
2	医療費以外の自己負担	差額ベッド代 6,000円 × 110日 = 660,000円
		食事代 780円 × 107日 = 83,460円
		その他交通費、衣類・謝礼、駐車場代等 400,000円
	合計	1,143,460円
A	高額医療費による還付	4ヶ月合計 814,770円

実質自己負担は、1 + 2 - A = 1,424,572円

この他に、医療費以外のお出費も念頭に！

上図Aの「高額医療費による還付」とは、手術や特殊な治療を受けると高額になる入院医療費に対し、自己負担限度額以上の額を還付する制度で、高額療養費支給制度と言います。

以上、簡単に説明しましたが、少子高齢化に伴い、健康保険自己負担5割の時代もそれほど遠くないと言われ、また左記のチェック項目のように、入院費自体も高騰しています。そして長寿社会になるほど、入院する機会も増えてくると思われ、この機会に今度、保険や貯蓄を見直し、万一の入院に対して、「すまいるライフ」を送れるよう、備えを充実させておきましょう！

※原則として部屋代、食事療養費を除いた一ヶ月の医療費が72,300円を超えていれば高額療養費還付の対象となります(一部例外あり)。